

アクアライン [6173・100 株] 8月31日 東証マザーズ市場上場

2015年8月13日(木)
更新: 9時47分
株式会社フィスコ

水まわり修理を手掛けるマザーズ案件

投資スタンスと初値メド

ブックビルディング参加	——
初値投資	——
初値メド	——

市場の注目度	★★★
想定仮条件レンジ	1100円~1300円
予想PER	13.9倍~16.5倍
予想トレーディングレンジ 期間: 上場後1年を想定	1000円~3000円
予想PER	12.7倍~38.0倍

※★印は5段階評価

日程

仮条件提示	8月12日
ブックビルディング期間	8月14日~8月20日
公開価格決定	8月21日
申込期間	8月24日~8月27日
払込日	8月28日
上場日	8月31日

類似会社 3社

平均PER	89.2倍	→	7,047円
JBR<2453>	42.7倍(連)	→	3,373円
ウォーターD<2588>	214.2倍(連)	→	16,922円
アクトコール<6064>	10.7倍(連)	→	845円

(PERは8月11日終値の会社側予想ベース)

「水道屋本舗」の屋号による水まわり緊急修理サービスの提供等を手掛ける。住宅の水まわり設備の老朽化や、水まわり商品の経年劣化を背景に、需要は徐々に高まっているという。また、収益を安定させるための事業として、ウォーターディスペンサー及びミネラルウォーター販売というストックビジネスの強化にも取り組んでいる。

公 IPO 人気の高まりやすい事業内容ではないものの、公開規模がマザーズ案件としても非常に小さく、需給妙味は大きい。軽量感のあるマザーズ案件は依然根強い人気がある。

公開規模については4億円程度となる見込み。ロックアップのかかっているベンチャーキャピタル株主が1社10万株を保有しているが、大きな懸念材料とはならないだろう。

銘柄紹介

アクアライン [6173・100 株] 8月31日 東証マザーズ市場上場

2015年8月13日(木)
更新: 9時47分
株式会社フィスコ



新規公開株レポート

業績推移 (百万円・%)						
決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2012/2	2,439	—	25	—	13	—
2013/2	2,535	3.9%	58	126.0%	33	140.4%
2014/2	2,987	17.8%	152	162.4%	70	111.8%
2015/2	3,285	10.0%	216	41.5%	65	-7.8%
2016/2 予	3,579	8.9%	261	20.8%	152	133.7%
2015/5 1Q	854	—	47	—	27	—
予想 EPS/配当		単独: 79.00 円(上場時発行済株式数で試算)/8.00 円				

連結業績推移 (百万円・%)						
決算期	売上高	伸び率	経常利益	伸び率	純利益	伸び率
2014/2	2,996	—	125	—	43	—
2015/2	3,302	10.2%	178	42.4%	92	114.1%

業績コメント

2016年2月期の業績は、売上高が前期比8.9%増の35.7億円、経常利益が同20.8%増の2.6億円と増収増益の見通しとなっている(前期単体との比較。なお、同社は子会社売却により2016年2月期の連結財務諸表を作成していない)。

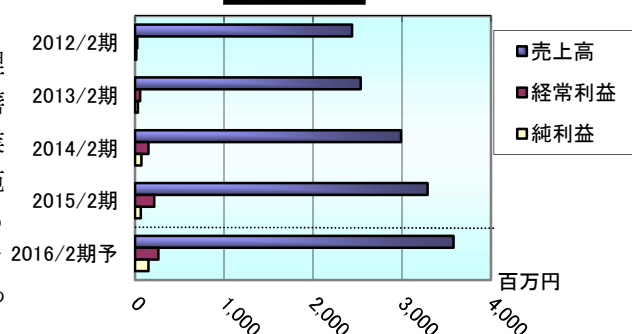
足元の経営環境は、消費税増税後の駆け込み需要の反動によってリフォーム、耐久財需要の減少があったが、住宅の水まわり設備の老朽化及び水まわり商品の経年劣化を背景に、水まわりの修理、トラブル解消に関する需要は徐々に高まっている。

このような環境の下、同社は、水まわり緊急修理サービス事業において、緊急修理に加えて水まわりの商品販売および修繕工事の営業展開による受注拡大と共に、業務提携会社との関係強化にも取り組み、施工拡大を図っている。その他の事業であるミネラルウォーター販売においても、プライベートブランド(PB)商品の営業に合わせ、備蓄用保存水の営業を強化している。

学校・ホテル等を納品先とするPB商品の販売は、春の行楽シーズンのホテル向け需要の取り込みが安定して推移した。防災向け備蓄用保存水の需要は、東日本大震災後の需要で第1四半期に反響が大きく、販売数量を伸ばした。

なお、通期計画に対する第1四半期末時点の進捗率は、売上高8.5億円で23.9%、経常利益0.4億円で18.0%となっている。

業績動向



銘柄紹介

アクアライン [6173・100 株] 8月31日 東証マザーズ市場上場

2015年8月13日(木)
更新: 9時47分
株式会社フィスコ



新規公開株レポート

基本概要

所在地	広島県広島市中区上八丁堀
代表者名(生年月日)	代表取締役社長 大垣内 剛(昭和48年6月14日生)
設立	平成7年11月1日
資本金	8144万円(平成27年7月28日現在)
従業員数	231人(平成27年6月30日現在)
発行済株式数(上場時)	1,924,000株(予定)
公開株式数	公募300,000株 売出一株 (オーバーアロットメントによる売出40,000株)
公開規模	3.7億円~4.4億円(OA含む)
事業内容	「水道屋本舗」の屋号による水まわり緊急修理サービスの提供等

売上高構成比率(2015/2期実績)

品目	金額	比率
水まわり緊急修理サービス事業	3,127 百万円	94.7 %
その他の事業	174 百万円	5.3 %
合計	3,302 百万円	100.0 %

幹事証券団(予定)

	証券会社名	引受株数	引受シェア
主幹事証券	いちよし証券(株)	未定	未定
幹事証券	SMBCフレンド証券(株)	未定	未定
幹事証券	SMBC日興証券(株)	未定	未定
幹事証券	東洋証券(株)	未定	未定
幹事証券	みずほ証券(株)	未定	未定
幹事証券	マネックス証券(株)	未定	未定
幹事証券	岩井コスモ証券(株)	未定	未定
幹事証券	極東証券(株)	未定	未定
幹事証券	エース証券(株)	未定	未定
幹事証券	岡三証券(株)	未定	未定

銘柄紹介

アクアライン [6173・100株] 8月31日 東証マザーズ市場上場

2015年8月13日(木)
更新: 9時47分
株式会社フィスコ



新規公開株レポート

大株主上位10位

順位	株主名	保有株数	保有シェア
1	大垣内 剛	1,112,000 株	65.26 %
2	ジャフコ・スーパーV3共有投資事業有限責任組合	100,000 株	5.87 %
3	ジャパンベストレスキューシステム株式会社	90,000 株	5.28 %
4	アクアライン従業員持株会	53,100 株	3.12 %
5	大垣内 好江	45,000 株	2.65 %
6	有限会社ヒロ・コーポレーション	33,300 株	1.95 %
6	株式会社ポイントラヴ	33,300 株	1.95 %
8	株式会社スマートソーシング・ジャパン	24,000 株	1.41 %
9	船橋 憲敏	20,000 株	1.17 %
10	株式会社エイテック	15,000 株	0.88 %
10	胡子 敏則	15,000 株	0.88 %
合計		1,540,700 株	90.42 %

その他情報

手取金の使途	設備資金(営業車両の取得、機材の購入及びシステム開発等の資金)、運転資金(広告宣伝費=「水道屋本舗」の認知率の向上のため、路線バスへのラッピング広告の広告制作費および掲載費用)、残額を長期借入金の返済資金に充当する予定。	
関係会社	-	
VC売却可能分(推定)	1社 100,000株(売出し・保有期間などの制限があるもの以外)	
直近有償第三者割当	年月日	-
	割当先	-
	発行価格	-

銘柄紹介

アクアライン [6173・100株]
8月31日 東証マザーズ市場上場2015年8月13日(木)
更新: 9時47分
株式会社フィスコ

銘柄紹介

生活に欠かせない「水」と「人」をテーマに、台所、トイレ、浴室、洗面所又は給排水管で起きる急な水まわりのトラブルを解消する「水まわり緊急修理サービス事業」を展開する。

迅速にトラブルを解消するために、24時間365日、修理依頼を受け付ける。北海道から沖縄県まで、全国において「水道屋本舗」ブランドで事業を展開している。また、トラブルの解消のほか、水まわりの器具及び商品の販売、部品の交換、漏水調査及び給排水管の取り替えも行っている。水まわりの器具及び製品の耐用年数は一般的に約10年程度であるため、築年数10年以上の住宅においては、使用頻度によっては、いつトラブルが起こってもおかしくない状態にあることが考えられることから一定の市場規模が見込まれ、さらに、緊急性を要するという特徴から業績が景気変動に左右されることが比較的少ないという傾向にある。

また、水まわり緊急修理サービス事業に加えて、2009年2月期よりウォーターディスペンサー充填式ミネラルウォーターの販売、2010年2月期よりペットボトル入りのナチュラルミネラルウォーターの販売を開始した。水まわりの修理を通じて常に水と向き合ってきた同社ならではの提案、サービス提供を行っている。水まわり緊急修理サービス事業がスポットビジネスであるのに対し、継続的に収入及び利益を確保し、クライアントを蓄積するストックビジネスとして期待ができる。

(1) 水まわり緊急修理サービス事業

同事業のサービスラインナップは主に、
(1A) 緊急トラブル修理・対応(トイレ・台所・洗面所・お風呂場の水漏れ・つまり)、

(1B) 水まわり商品の販売・取付(温水洗浄便座、洗面化粧台の販売・取付等)及び
(1C) その他修繕工事等(排水マス交換工事、排水管の修繕等)となっている。

顧客は、タウンページ、新聞折込チラシ、インターネットホームページ、モバイルサイト及びマグネットのいずれかの広告媒体を見て、全国どこからでもフリーダイヤルで、コールセンターに連絡できる。コールセンターでは、常に、トラブルに困っている顧客に対して丁寧な対応を心掛けつつ、顧客宅へできるだけ早く訪問できるように、迅速な受注管理を行っている。

(2) その他の事業

水まわりの修理を通じて常に「水」と向き合ってきた同社ならではの提案として、現在、ミネラルウォーターの自社ブランド「aqua aqua」による商品を展開すると共に、ミネラルウォーターのペットボトルのラベルをオリジナルでデザインするプライベートブランド(PB)商品の提案、備蓄用の保存水の販売、及びウォーターディスペンサーを取り扱っている。

アクアライン [6173・100 株] 8月31日 東証マザーズ市場上場

2015年8月13日(木)
更新: 9時47分
株式会社フィスコ



投資のポイント

インターネット関連やテーマ関連のような IPO 人気の高まりやすい事業内容ではないものの、公開規模がマザーズ案件としても非常に小さく、需給妙味は大きい。8/11 にマザーズへ上場したパルマ<3461> (公開規模6.1億円)は公開価格を70.5%上回る初値となった。足元の IPO 市場では銘柄選別色が改めて強まってきているが、軽量感のあるマザーズ案件は依然根強い人気がある。

発行済株式の7割近くを保有している。ロックアップのかかかっていないベンチャーキャピタル株主が1社10万株を保有しているが、大きな懸念材料とはならないだろう。8/31 は同日上場の企業がない点も同社にとって追い風となる。

同社は「水道屋本舗」の屋号のもと、台所、トイレ、浴室、洗面所または給排水管で起きる急な水まわりのトラブルを解消する「水まわり緊急修理サービス事業」を、北海道から沖縄県まで全国で展開している。住宅の水まわり設備の老朽化や、水まわり商品の経年劣化を背景に、需要は徐々に高まっているという。また、収益を安定させるための事業として、ウォーターディスペンサー及びミネラルウォーター販売というストックビジネスの強化にも取り組んでいる。

業績面について、2016年2月期は売上高が前期比8.9%増の35.7億円、経常利益が同20.8%増の2.6億円と増収増益の見通しとなっている(前期単体との比較)。直近数期は業績の拡大トレンドが続いている。類似企業のバリュエーションはまちまちだが、同社の想定仮条件水準の今期予想PERは14~16倍程度で、割高感は強くない。

公開規模については4億円程度となる見込み。大垣内剛社長と大垣内好江常務で